

TEC COMMUNICATIONS

TEC

COMM.

Vol.1 Mar. 2001

Toyo Engineering Corp.(TEC)

「**トータルソリューションプロバイダー**」
へ確かな前進を。

TECのプラントEPCビジネスが開店中！

米国独立系最大手向け**ガソリン製造装置**を受注

TECホームページがリニューアル公開中！



新刊ニュースレターについて

新世紀の始まりに当たって、“トータル・ソリューション・プロバイダー” へ向けて取り組むTECの新しい顔を皆さまにご紹介していくニュースレター“TEC COMM.”を発刊することになりました。

私たちは、この“TEC COMM.”をコーポレートガヴァナーの皆さまとTECを繋ぐコミュニケーションパイプとして、当社の経営方針や事業の計画・進捗・成果など、TECのさまざまな成長の断面をお伝えしつつ、皆さまとのパイプをますます太くしていきたいと考えておりますので、よろしくお引き立てのほどお願い申し上げます。

「トータル・ソリューション・プロバイダー」

へ確かな前進を。

Accountability

広瀬社長年頭経営方針を語る

発想と意識の改革

今年は21世紀という新しい時代の始まりであるとともに、当社にとっては「創立40周年」の記念すべき年であります。この節目に当たり、私は、当社が目指す「トータル・ソリューション・プロバイダー」へ向けたモデルチェンジのより明確な形を、当社を取り巻くステークホルダーの皆さまに示していきたいと考えております。

平成12年を振り返ってみますと、経済は緩やかな回復基調をたどり

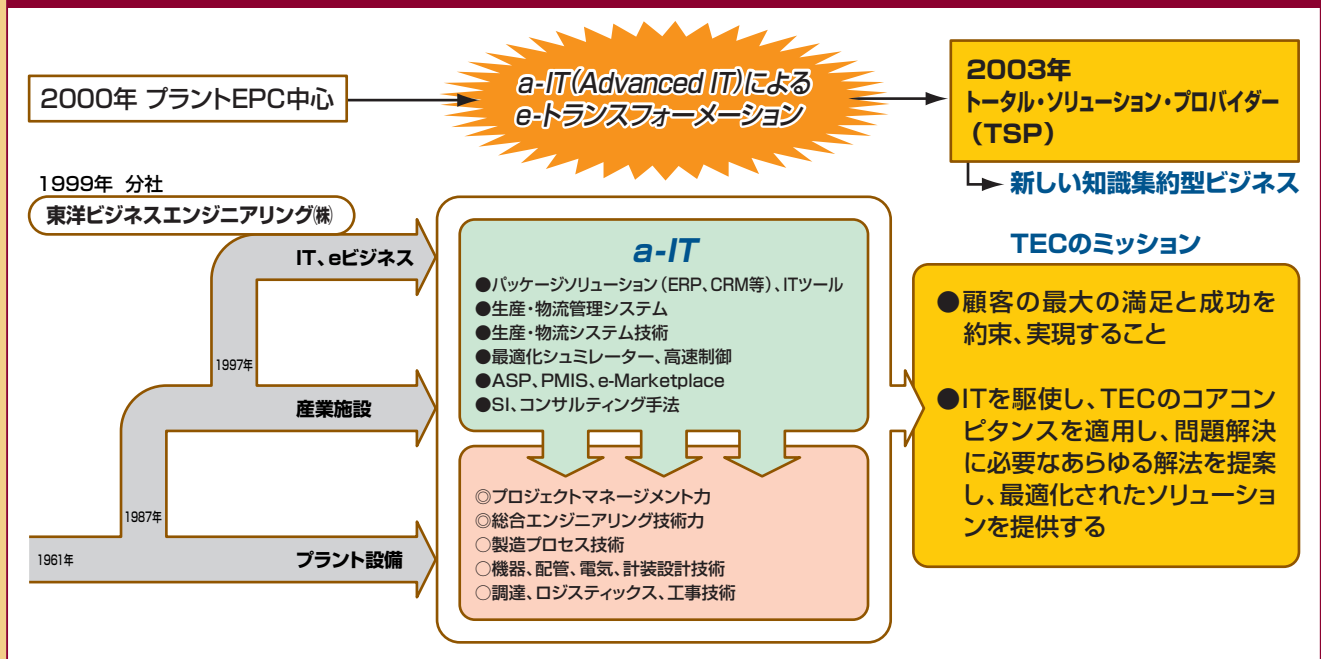
ましたが、エンジニアリング業界のマーケットは依然として低迷を続け、当社を取り巻く環境は未だ厳しいといわざるを得ません。このような状況下、昨年1月にはTEC再建を目指す3カ年の「第二次再建計画」を発表し、私自身が再建本部長となって、4月には全社の組織再編と意思切った人事刷新を実施してまいりました。

こうした新しい体制下で、本計画の骨子をなす海外でのトランスナショナル体制への移行や、国内における提案型ビジネスの構築を順調に進

め、利益率の高い中小案件・ソフト案件の受注が着々とその実績をあげてきております。また、新たに情報系の「公募」や、新規ビジネスへの挑戦を支援する「ビジネスインキュベーションシステム」を設置することによって、当社内に新しい領域へチャレンジする門戸を開いてきましたが、これが社員の発想と意識改革を促すモチベーションになっていくものと期待しています。

この1年間を振り返って、私は再建計画の方向性は間違いのないものであると確信しています。

トータル・ソリューション・プロバイダーへ向けて





知識集約のダイナミズムが TECを変える

平成13年はまず数値の上でも浮揚基調をつかむとともに、平成14年からの経営安定化を目指して、追加施策を含めた構造改革を一層加速していきます。現在重要なポイントとして、平成12年度通期での黒字達成と、中長期的視点に立って経営安定化に資する新しい「ビジネスモデル」構築の2点に対する取り組みが不可欠です。

新しいビジネスモデルは、当社の収益構造を従来の「プラントEPC型ビジネス」のみに依存するのではなく、今後マーケットとして期待される「e-ソリューション型ビジネス」を合わせた「2本の柱」にすることです。

「e-ソリューション型」とは、情報システム、生産管理システム、プロジェクトの実行管理など、それぞれの専門的職能を一つに統合して、顧客に対して、よりトータルなソリューションを提供していくビジネスです。

このために、関連会社である東洋ビジネスエンジニアリング(株)との密接な協調のもと、当社のコアコンピタンスである「エンジニアリング技術の総合力」と「プロジェクトマネジメント力」を、ITとの結合を通してさらに強固なものとしていきます。つまり、ITを駆使した「トータル・ソリューション・プロバイダー」となることが、われわれの目指すべきところです。

この方向に沿った形で、エンジニアリング会社としての新しい知識集約を進める「e-トランスフォーメーション」を徹底し、より高度なソリューションを提供できる人材の育成に向け、研修も積極的に開始していきます。組織的には、新年を期し

再建計画の概要

中期経営計画99

- 1999年4月策定
- 従来型モデルの業務改善

- 5か年計画 ●受注拡大
- プロジェクトの成果向上
- 固定費の削減 ●IT事業の分社化
- 経営・管理の改革 ●財務体質の改善



再 建 計 画

- 2000年2月より、3年計画(スピードアップ)
- 事業構造そのものに切り込んだ抜本的改革

基本コンセプト

1. **トータルソリューションの提供**
(提案型エンジニアリング)
2. **トランスナショナル体制の確立**
(海外各拠点をGlobal Networkで結んだ水平分業体制)
3. **Information Technology(IT)**
4. **プラントからのシフト**
=要員構造の見直し
5. **成果型処遇と人事の徹底**

顧客密着
地域密着

て平成13年1月1日付で次のような改正を実施しました。

- ◆まず、従来のプラントEPC事業に関係するITビジネスの展開に加え、新たな「e-ソリューションビジネス」の要員育成とその新規事業の開拓を目指すべく、「プラントITセンター」を再編しました。
- ◆次に、産業システム事業部の組織を改正し、「サプライチェーンビジネスセンター」と「マニュファクチャリングソリューションセンター」の2つのプロフィットセンターとしました。これによって、特にサプライチェーン事業の強化・拡大とこれによる収益向上を図っていきます。
- ◆そのほか、重要視しているプラントでのソフト案件受注拡大を図るべく、施設環境事業部に「コンサルティンググループ」を新設しました。
- ◆また、環境分野に関連して、PCB処理に関する今後のビジネス展開とプロジェクト実施の体制強化を図り、ES事業部に「PCB処理事業推進室」を新設しました。

「トータル・ソリューション・プロバイダー」を目指して

TECの長年にわたるプラントEPCの経験と情報技術の活用に進取的に取り組んできた実績を活かして、関連会社である東洋ビジネスエンジニアリング(株)と協調しつつ、ソリューションを提供しています。

DCS(Distributed Control System)をはじめとするプラントの制御機器や接続されるコンピューターシステムの技術進歩は目覚しく、特にオープンシステム化の流れから、現場の制御機器データから本社のホストコンピューターまでが容易に結びつけら

れるようになりました。

また、SAPをはじめとする企業資源管理システムから、制御パッケージ、設備管理パッケージまで業務効率を高める多くの市販ソフトウェアが登場し、ERP(Enterprise Resource Planning)、SCM(Supply Chain Management)、CRM(Customer Relationship Management)、KM(Knowledge Management)などの経営理論を推進役として、多くの企業が製造現場から本社まで、さらに関連取引先までをネットワークで接続し、業務改善を推し進めています。

このような状況下、製造の現場から経営システムにわたる情報を迅速かつシームレスに伝えることのできる情報システムが求められています。こうした経営環境にこえて、TECは、各階層別のアプローチとそれらを統合する両面からのアプローチができる数少ないソリューションプロバイダーといえます。

徹底した体質強化で 収益増をはかる

もう一方の柱である「プラントEPC事業」の推進については、何と

しても儲かる収益構造を作り上げ、どう実施していくかが最も重要ですので、トランスナショナル体制の強化や戦略的アライアンスの推進など、受注増およびプロジェクト収益力の向上に向けて、再建計画の実行を一層徹底、加速化させてまいります。そのために、「技術力」「マネジメント力」のレベルアップを図っていくことは当然です。

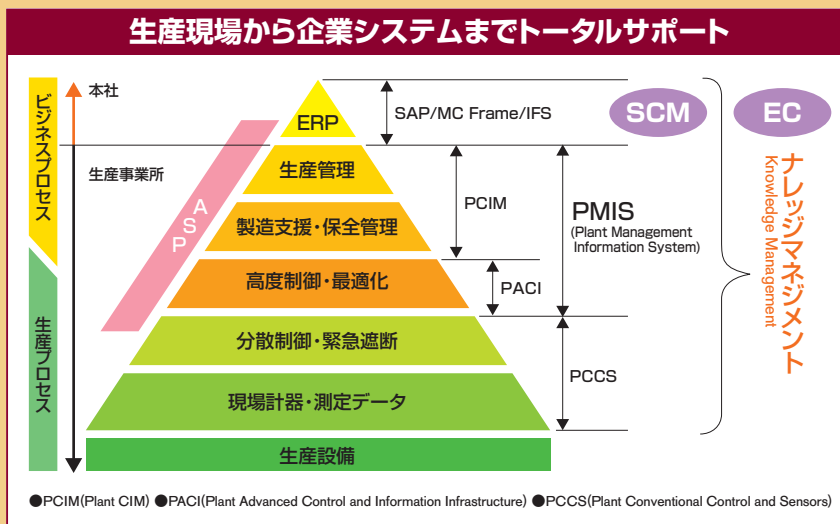
また、TECをより筋肉質の会社とすべく、さらなるオーバーヘッドと間接費の抑制に努めるとともに、平成13年度末を達成予定としている900人体制をできるだけ前倒しで実現していく考えです。

21世紀の初頭に当たって、私は陣頭指揮をとってこうした諸施策を実施していくとともに、当社が持てるトラディショナルなコアとITとの一段の融合を意味する「e on T」を十二分に発揮して総合エンジニアリング力の強化を図り、当社自身の収益向上、ひいてはお客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの利益に貢献できるよう、平成13年は「上に向かって行動する年」とする決意であります。



取締役社長 広瀬 俊彦 (ひろせ・としひこ)
 PROFILE

昭和10年、高知県に生まれる。名古屋工業大学工業化学科を卒業し、新潟鉄工所を経て東洋エンジニアリングに入社。「日本にエンジニアリング会社ができて50年、私たちはエンジニアリングの質の変化にあわせて、ITという道具を利用した新しい知識集約型と従来型を融合して幅広く同時並行でやっていく必要があります。考え方の基本は、お客様が何を望んでいるのか、エンジニアリング会社として何を提供できるかということです。従来型のEPCとITとを組み合わせ、顧客にとって最も利益になるソリューションを提案していきます。」昨年は12回海外出張し、イラン、アメリカ、東南アジアなどの客先・ライセンサー・オイルメジャー・ケミカルメジャーなどのトップに会い、精力的に世界を飛び回った。「外に出て会社のトップとして行動することが重要」と自ら語る。「後ろ向きなことなどは考えないで、徹底的に前向きでゆく」というのが、モットー。





新生TOYO-Mが始動!!

TECグループのトランスナショナル体制の実現に向け、マレーシア現地法人であるToyo Engineering&Construction Sdn. Bhd. (TOYO-M)が強化されました。マレーシアにおける過去15年以上にわたる実績と信頼のもと、TECとTOYO-Mのさらなる発展の可能性を拡げるため、トランスナショナル体制の一拠点・EPC 遂行能力のある会社としてTOYO-Mが強化されました。これにより、コスト競争力の強化、現地密着案件の開拓、既設改造案件などの受注、TECが建設したプラントのメンテナンスビジネス、エンジニアリングサポートサービス(企業診断・コンサルティング・官庁申請サービス・通関サービス・ITビジネス支援)をターゲットとしています。

昨年12月にはTOYO-Mとして初の単独プロジェクトを受注しました。TOYO-Mが選ばれたのは、マレーシアにおけるTECの過去の実績が高く評価されただけでなく、コスト的にもローカルコントラクターに対抗できる競争力が身についた証しであるといえます。さらに、プラントITセンターとの協業によりメンテナンスビジネス(Plant-clinic)にも営業展開を行っており、今後の受注につなげていきます。

TECグループのトランスナショナル体制の一拠点として、1日も早く貢献するのはもちろんのこと、10年後にはマレーシアのみならず東南アジアの核となるべく、日本からの派遣メンバーおよび現地スタッフが丸となって日々頑張っています。



TECCのプラントITビジネスが開店中!

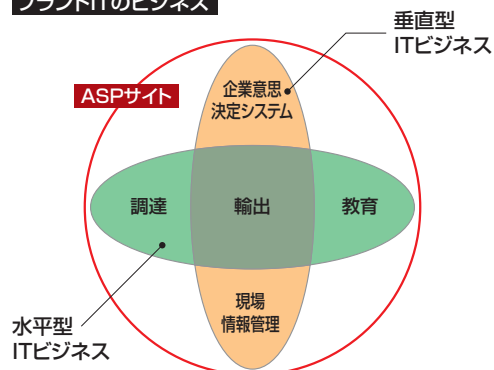
昨年4月にプロセス産業を対象とした垂直型ITビジネス(特定分野の統合情報サービスの提供)として「プラントITセンター」を発足させました。プラントITセンターはビジネスの1つの柱として、エンジニアリング業界初のASPサイトである「EPSource.com」をスタートさせ、プロセス産業設備をライフサイクルにわたって支援することを目標に、エンジニアリングアプリケーションを配信するとともに、調達サービスや設備診断や解析などのコンサルティングサービスを提供しています。

現場情報管理から企業意思決定システム(Field to Enterprise)までを連携するソリューション事業を展開中です。その中でも、プラントの設備管理・運転支援・保全管理システムは、プラントITビジネスの主要商品です。

昨年11月、(株)NTTデータ、三菱電機株、日立製作所株など8社によって共同設立された「(株)きつとエイエスピー」(事業内容:欧米ベンチャー企業を中心としたASPインフラ要素の先進技術の評価・導入を行ない、日本およびアジア市場における独自性の高いビジネスモデルに適合できるように統合、改良する。)に参画中であり、TECのIT関連ビジネスの新展開につながることを期待しています。

さらに、プラントエンジニアリングでの知見を活かしつつ、調達、教育などへの業務システムの水平型ITビジネス展開にも取り組んでいます。

プラントITのビジネス





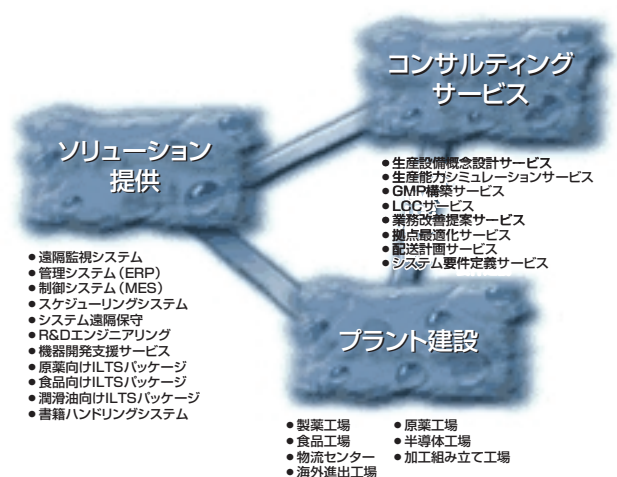
産業システム、1月より新組織をスタート!

産業システム事業部は、TECの事業部として1987年に設立され、情報／物流／生産システムにわたる産業システム構築の草分け的存在として活動を開始し、お客様に先端IT技術によるソリューションと革新的な生産システムを統合した提案型ビジネスをこれまで実践してきました。

さらに、コンサルテーション&ソリューションプロバイダーという事業方針の下、サプライチェーン全体を見渡して競争力の高い仕組みをお客様にご提供するため、今年1月1日付けで組織改正を実施しました。この改正により、IT／生産／ロジスティクスのエキスパートから成るプロジェクトチームをより柔軟に編成し、これらの技術を融合した真のソリューションをご提案してまいります。

産業システム事業部の売り物である最新のソリューション・商品を具体的にアピールする場として、昨年10月17日から21日まで幕張メッセにて「国際物流総合展 2000 (LOGIS-TECH TOKYO 2000)」に、IT関連会社である東洋ビジネスエンジニアリング(株)〔B-ENG〕と共同出展し、ブースにて「『SUC*CES*S〕(SUPPLY Chain Consulting, Engineering, and Supporting Service) ~ Cyber と Real の融合」を基調テーマとして、各種の事例紹介セミナーとデモ展示を行ないました。セミナーコーナーでは、①「SUC*CES*S ~ Cyber と Real の融合」、②「SABLINA

とビジネスインテリジェンス」、③「ロジスティクスネットワーク再構築におけるポイント~SABLINA 適用事例のご紹介」、④「配車支援システム TRASy のご紹介」、⑤「医薬卸勝ち残り大作戦」、⑥「e-Commerce Solution ~ Commerce Center 6」のプレゼンテーションを実施し、デモンストレーション&体験コーナーでは、各種ツール(拠点配置最適化サービス“SABLINA”、配車支援システム“TRASy”、生産シミュレーションサービス“PLEIADES”、販売・生産・物流統合システム“MCFrame”)によるデモ実演を行ない、当社のエンジニアリング力をわかりやすくアピールしました。



■ERP: Enterprise Resource Planning ■MES: Manufacturing Execution System
 ■ILTS: Intelligent Liquid Transfer System ■GMP: Good Manufacturing Practice ■LCC: Life Cycle Cost



Petrochemical Projects

マレーシアに世界最大級のアロマティクス・コンプレックスが完成



Net Sales

マレーシア東海岸のトレンガヌ州ケルテ工業団地内に建設していたアロマティクス・マレーシア社 (AMSB) 向けパラキシレン420,000トン・ベンゼン145,000トンの年産量を誇る世界最大級のアロマティクス・コンプレックスプラントの建設プロジェクトが、契約後30カ月が経過した昨年2月、プロセスユニットのメカニカルコンプリーションを達成し、7月にプラントアクセプタンスを達成しました。

工事最盛期には現地作業員が6,000人超、TECサイトスタッフも500人超というマレーシアにおいて近年に稀な大型プロジェクトになると同時に、TECのマレーシアにおける経験と実績の真価が問われるチャレンジプロジェクトでした。

このプロジェクトは1997年8月、PETRONAS社、三菱商事(株)、(株)ジャパンエナジーの合弁企業であるAMSBから、TECをリーダーとする、マレーシア現地法人 TOYO-M (Toyo Engineering & Construction Sdn. Bhd.)、Equator Engineering Sdn. Bhd. をメンバーとするコンソーシアムが設計、調達、建設、試運転までのターンキー・ランプサム契約にて受注したものです。

Petrochemical Projects

台湾エチレンプラントが順調に稼働中



Net Sales

台湾プラスチックグループ (FPG) が台湾中部西海岸の麦寮地区で推進するNo.6ナフサクラッカー・コンプレックス (通称：麦寮コンプレックス —— 南北 8.5キロメートル、東西3キロメートルの計2,600ヘクタールにわたる広大な敷地を有する、最上流のリファイナリー [450,000 BPSD] から始まる大小47のプラントが建設中) の中核プラントである台塑石化 (FPCC) のNo. 2エチレンプラントが完成し、昨年10月11日より順調に生産運転を開始しています。

このNo.2エチレンプラントは、生産能力年産1,035,000トンのナフサクラッカーとしては世界最大のエチレンプラントであり、1993年のLGIの基本設計開始以来、丸7年の歳月を経過し、今回の稼働開始となりました。当社は、これまで数多くのエチレンプラントの設計・建設・運転の実績を買われ、この巨大プロジェクトの詳細設計、調達サービスの提供とともに、試運転・運転助勢サービスとしてプラントの立ち上げにも参画してきました。

「クエンチタワー」

Refinery Projects

米国独立系最大手向けガソリン製造装置を受注

TECは、米国のTosco Refining Company (A Division of Tosco Corporation) がワシントン州のFerndale製油所に計画する流動接触分解装置 (FCC : 3万BPSD) とその付帯設備を受注し、昨年10月20日に客先とTECおよび米国現地法人であるToyo U.S.A.との間で契約調印しました。TECおよびToyo U.S.A. の役務範囲は詳細設計、機器調達、工事を含むターンキー・ランプサム契約で、プラントの完成予定は2003年1月末となっております。

このプロジェクトは、国内に7製油所 (昨年10月末現在 生産能力合計 1,350,000 BPSD) を有する米国独立系最大の石油精製会社である Tosco Refining Company が、Ferndale 製油所で計画するハイオクガソリン増産および「クリーン・エアー・アクト」環境法対応に向けたアップグレーディングプロジェクトの一環として位置づけられています。

昨年5月に入札事前審査通過後、8月末に案件入札が行なわれ、米国の大手コントラクターとの競合の末、FCCで豊富な実績をもつTECが選定され、受注となったものです。

New Orders



「契約調印にて (Tosco Refining Company Dwight Wiggins 社長 (中央左)、TEC 広瀬社長 (中央右))」

Petrochemical Projects

サウジアラビア向けポリエチレンプラントを受注

TECは、三井物産(株)の協力を得て、サウジアラビアのArabian Petrochemical Company (PETROKEMYA) [サウジアラビア基礎産業公社 SABIC (Saudi Arabian Basic Industries Corporation) の子会社] が、同国東海岸に位置するアルジュベール工業地区に計画を進めていた年産400,000トンのポリエチレンプラントを受注しました。TECの役務範囲は設計、機器資材の調達および工事までの一括請負いで、プラントの完成は2003年中頃の予定です。

このプロジェクトは、昨年11月に行なわれた国際入札の結果、同国向けに昨年完工したEO・EGプラント建設での円滑なプロジェクト遂行実績および昨年8月に受注し、同工業地区内にて現在遂行中の National Chemical Fertilizer Co. (NCFC) 向けアンモニアプラントの能力増強プロジェクトを背景としたTECの技術力の信頼性と価格競争力が決め手となり、受注にいたったものです。

New Orders



「契約調印にて (前列左より、PETROKEMYA Rawaf 社長、Sayyari 会長、TEC 広瀬社長)」

Petrochemical Projects

今年7月の完成に向けてマレーシアEOGプロジェクトが順調に進行中

Optimal Glycols (Malaysia) Sdn. Bhd. 社 (PETRONAS社とUCC社の対等合弁会社) 向けEOGプラント [EO 年産140,000トン、MEG 年産320,000トン、DEG 年産20,000トン] の建設工事が、マレーシア東海岸のトレンガヌ州ケルテ工業団地内においてピークを迎えています。

このプラントは、客先が同時に建設するコンプレックスの1つで、TECを含む4社のコントラクターによるプロジェクトが今年7月の完成をめざして同時進行しています。現地工事開始以降、現在にいたるまで無事故無災害で、工事プロGRESSも順調に進んでいます。

Backlog of Contracts



「進行中の現地組みタンク工事」

安全・健康・環境に関する基本方針を改正

昨年8月、TECの『安全・健康・環境に関する基本方針』が改正されました。エンジニアリング会社としての社会的責任を果たすため、TECの役員、従業員はこの基本方針に従って行動することとされています。

東洋エンジニアリング株式会社

安全・健康・環境に関する基本方針

安全・健康の確保と環境保全は、品質確保とともに、当社事業活動の基盤をなすものである。当社の役員、従業員は、以下の基本方針に従って行動し、事故災害を防止し、環境を保護し、もってエンジニアリング会社としての社会的責任を果たし、顧客と社会からの信用の維持拡大に努めるものとする。

1. **プラント・設備の安全性・環境保全性の確保**
開発、設計、調達、建設、試運転の各段階において、安全性、環境保全性の確保に努め、顧客が安心して操業できるプラント・設備を提供する。
2. **無事故・無災害の達成**
安全で健康な作業環境を確保するとともに、事故リスクを排除し、無事故・無災害を達成する。
3. **環境の保全**
廃棄物の無害化・最小化に努め、地域社会の環境保全に配慮する。また、省資源・省エネルギーに努め、地球環境の保護に寄与する。
4. **法律・規則の遵守**
安全・健康・環境に関する法律・規則を遵守する。また、社内標準を整備し、最新の技術・考え方に基づくものに維持する。
5. **教育・訓練**
従業員、協力会社従業員に対して安全・健康・環境に関する教育・訓練を実施し、役割達成に必要な能力を開発するとともに、意識の高揚を図る。
6. **継続的改善**
安全・健康の確保及び環境保全のためのマネジメントシステムを構築し、組織の各階層において継続的改善に努める。

以上の基本方針を当社役員、従業員の全員に示達する。
平成 12 年 8 月 1 日

東洋エンジニアリング株式会社
取締役社長 広瀬俊彦

マレーシアKVCMプロジェクト 6百万労働時間無事故・無災害記録を樹立

KVCM プロジェクトサイトでは、昨年8月12日(1998年3月のサイトワーク開始以降850日目)、6百万労働時間無事故・無災害記録を樹立しました。客先 VINYL CHLORIDE (MALAYSIA) SDN. BHD. [VCMSB] 社の Mr. TENGKU, CEO より、当社をはじめとするコントラクターのコンソーシアムメンバー、PMCのコンソーシアムメンバー、客先プロジェクトチームに対して記念の賞状が手渡されました。客先母体であるPETRONAS 社では、安全・健康・環境に対する関心がきわめて高く、今回の記録樹立によりEPCコントラクターとしての当社の評価を一段と高めることができました。

無事故・無災害を続けるにはサイトで働くすべての人々が常に安全第一を心がけ、1人1人が健康な作業環境の維持に努めることによってもたらされるものであるとの方針のもと、それをサイトにおいて実現するために、1人1人の作業員にいたるまで徹底した安全教育を実施し、各自の安全に対する意識を喚起することを継続してきました。



EN

TECホームページがリニューアル公開中!!

TECのホームページが、昨年6月末からリニューアル公開中です。IR情報をさらに充実させるとともに、ビジネスツールとして活用するために、コンテンツの整備を行ないました。

<オフィシャルホームページのアドレス (URL) <http://www.toyo-eng.co.jp/>>
ビジネス紹介、プラント事業・産業システム事業・エネルギーソリューション・プラントIT事業(「EPSource.com」のWebサイトにリンク)、環境保全、テクノロジー(「Engineering Cafe (e-cafe)」のWebサイトにリンク)、IRを含む事業情報などについてわかりやすく紹介されています。「産業システム事業」では、サプライチェーン全体を見渡して、IT/生産/ロジスティックの技術を融合し、競争力の高い仕組みをお客様にご提供するソリューションや商品に関する情報を満載しています。

<EPSource.comのホームページのアドレス (URL) <http://www.epsource.com/>>
プロセス産業設備をライフサイクルにわたって支援するエンジニアリングASPサイト。エンジニアリングアプリケーションを配信するとともに、調達サービスやコンサルテーションサービスを提供しています。



オフィシャルホームページ



EPSource.com



ITが企業運営のあり方を根本から変える。

深化する情報のバリアフリー化

● 現在取り組まれているプラントITビジネスのキーポイントについてお聞かせください。

西：インターネットをはじめとするIT（情報通信技術）の普及は、今や既存の社会や産業の枠組みさえも変えるところまで来ています。エンジニアリングの世界においてもそれは例外ではありません。特に近年は通信コストなどの低廉化によって、お客様サイドの情報収集力が高まっています。かつて供給側と顧客の間に存在していたような情報の質的、量的格差はもはやほとんど存在しないといつていいでしょう。当然のことながら従来のマーケティング手法や流通を含むビジネスのあり方そのものも根本的な見直しを迫られています。事実、お客様の情報武装が充実する中で、取引の仲介を商売とする中間業者の役割までもが変化しているのです。

ITと言うと、ともしれば技術面に視点が置かれがちですが、実は財務・会計を含む企業運営の変革の視点がより重要です。各企業においては、①国際企業運営の「標準」に則った株主重視のオープンな経営が求められること、②分野や国を超えた「コラボレーション」の進展、③自らのコアコンピタンスを強化する「アウトソーシング」の実施、という3本柱による新しい事業展開が期待されています。その際、重要となるのは情報共有の質と量で、ITはこの面で大きな効果を生みます。しかしIT時代にこそ留意すべきは、すべての情報を鵜呑みするのではなく、情報をフィルタリングする（人の経験に基づく知識の蓄積により、膨大な情報をできるだけ整理する）、選別すること。ある意味で、ソリューションビ



ジネスとは、単なる効率化の推進にとどまらず、人とシステムの有機的なつながりを強化するものではないでしょうか。

全社的な情報共有化が付加価値の高いサービスを生む

● プラントITビジネスにおいて、TECのビジネスチャンスはどこにあるのでしょうか？

西：プラントEPCの業務とソフトウェアインテグレーターの業務には共通点があります。どちらも仕様書に基づいてハードウェアの能力などを把握した上で、最適なシステムを構築していくというターンキー・ランブサムとしての側面です。TECの強みである、①プロジェクトをうまく遂行していくための効率的なフォーメーションノウハウのお客様へのご提案、②英語によるコミュニケーションや各地域の商慣習をよく知るといったグローバルな強さは、システムインテグレーションの分野でも大きな強みになります。

プラントの操業現場では、電子化やシステム構築のニーズが高まっており、本社や協力企業との効果的な情報共有を進めることを主眼に、保全システムや運転管理、さらに教育にいた

るまでのシステムを提案していくビジネスを行なっています。エンジニアリングASP（アプリケーション・サービス・プロバイダー）サイトであるEPSource.comのP（Procurement）の部分のサービス（e-Global PS）が3月から始まり、充実してきました。TECの特徴は、まさに関連分野のノウハウを含めてお客様にご提供できるところにあると思います。

技術革新以上に経営革新を

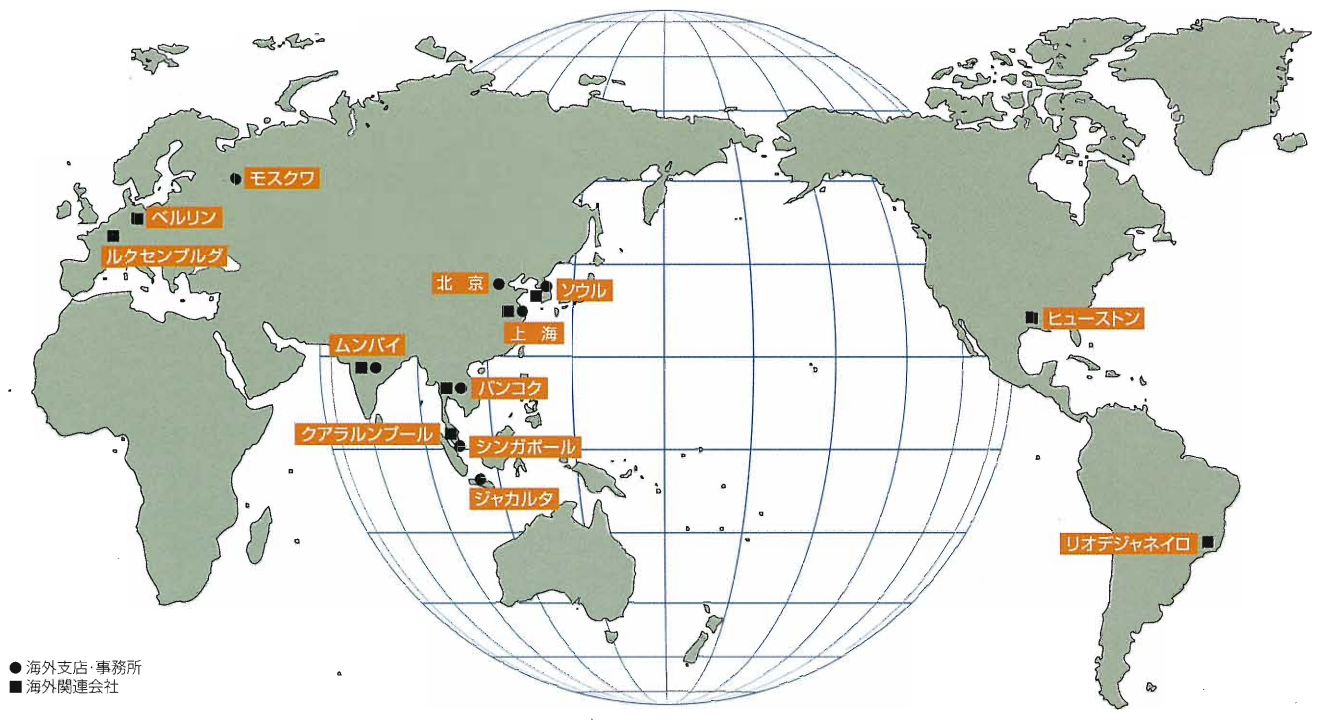
● プロセスプラントを扱う仕事とITを扱う仕事での共通点・相違点はありますか？

西：プロセスプラントでもシステムでもお客様からのご要求を十分にくみ上げ、仕事の範囲を明確に設定した上で、全体の最適化をめざすという点で共通しています。違いとしては、ビジネスを議論する際に、プラントに関しては技術中心に語られることが多いのですが、ITの世界では資本の理論をはじめとする会社の政策や財務的な知識がむしろ不可欠となります。もちろん、ますますスピードアップする技術革新に追い付く努力も必要ですが、財務会計や企業運営の面でもっと自己研鑽を積まなくてはならないと感じています。



Profile
西 洋一 (にし よういち)

昭和53年入社。石油化学／石油精製関連のプロセス設計および設計システム化に携わり、平成3年～4年米国・カーネギーメロン大学大学院修士課程に留学し、CAE（Computer Aided Engineering）を専攻した後、設計マネジメントシステムの開発に従事。昨年4月プラントITセンター・ASPチームリーダーを経て、今年1月プラントITセンター事業開発グループマネージャー。



● 海外支店・事務所
■ 海外関連会社

東洋エンジニアリング株式会社(TEC)

本 社

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜2丁目8-1
Tel: 047-451-1111 Fax: 047-454-1800
URL <http://www.toyo-eng.co.jp/>

東京本社

〒100-6007 東京都千代田区霞が関3丁目2-5
Tel: 03-3592-7411 Fax: 03-3593-0749

技術研究所

〒297-0017 千葉県茂原市東郷字富士見1818
Tel: 0475-24-4551 Fax: 0475-22-1338

関西支店

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6丁目1-1
Tel: 06-6390-1101 Fax: 06-6390-1201

海外支店・事務所

ソウル

Miraewasaram Bldg. 942-1, Daechi-Dong, Kangnam-ku, Seoul 135-280, Korea
Tel : 82-2-557-7098 Fax : 82-2-539-5867

北 京

E. 7th fl. Bldg. D, Fuhua Mansion, Chaoyangmen North Avenue No.8, Beijing 100027, China
Tel : 86-10-6554-4515 Fax : 86-10-6554-3212

上 海

Room No. A-902A, Yin Hai Bldg., No.250 Caoxi Road, Xuhui District, Shanghai 200233, China
Tel : 86-21-6482-5219/5220 Fax : 86-21-6482-5221

バンコク

21st fl., Serm-Mit Tower, 159 Soi Asoke, Sukhumvit 21 Road, Bangkok 10110, Thailand
Tel : 66-2-661-7400~4 Fax : 66-2-661-7405

ジャカルタ

Midplaza 8th fl., Jl. Jendral Sudirman Kav. 10-11, Jakarta 10220, Indonesia
Tel : 62-21-570-6217/5154 Fax : 62-21-570-6215

シンガポール支店

#04-04/05, Tan Chong Tower, 15 Queen Street, Singapore 188537
Tel : 65-226-1996 Fax : 65-226-0293

ムンバイ

"Toyo House", L.B.S. Marg, Kanjurmarg(West), Mumbai-400 078, India
Tel : 91-22-579-9001 Fax : 91-22-579-9061~2

モスクワ

Room No.708, Mezhdunarodnaya-2, Krasnopresnenskaya Nab.,12, Moscow 123610, Russia
Tel : 7-095-258-2064 Fax : 7-095-258-2065

海外関連会社

ルクセンブルグ、ヒューストン、ベルリン、リオデジャネイロ、上海、ソウル、ムンバイ、バンコク、クアラルンプール